

そうだ！動物園へ行こう

東京都恩賜上野動物園

ズーイズピース

上野動物園は、1882年に開園した日本で最初の動物園です。第二次世界大戦中には、ライオン、トラ、ゾウなどの猛獣が殺処分され、処分を免れたカバなども、東京大空襲のあと、エサがなくなり処分となりました。餓死した動物たちもたくさんいました。敗戦の翌年、「動物園は平和そのものである。ズーイズピース」を合言葉に再園。エサ不足を補うために、カボチャの種が入園料でした。1948年、闇市があり、浮浪児が上野の町にたくさんいた時代。「子どもたちにあたたかい心をもってほしい」と動物園内に「子ども動物園」を設立。おサル電車も開通しました。娯楽の少なかった子どもたちに、動物を身近で見ると「ふれる！ 楽しい場を提供していきましょう」。

その子ども動物園が2017年夏、リニューアルしました。リニューアルでめざしたのは？ 子ども動物園で働く高橋英之さん、

井内岳志さんにお話をうかがい、案内していただきました。

もつと間口をひろげて

これまでの子ども動物園は、4〜5歳の幼児や小1ぐらいまでの子どもたちが対象となる内容でした。それをもっと下の年齢と上の年齢にひろげようと思ったのが、今回のリニューアルのポイントです。

はじめてルーム

はじめてルームは、3歳までの子どもと付き添いのおとなが対象です。45分間最大で7組が過ごします。45分、どのような過ごし方を？ 実際、0歳児を連れてお母さんたち2組のようすを見せていただきました。

整理券をもらい、エレベーターですてっぶ館の2階へ。ベビーカーは廊下に置き、はじめてルームへ。フロアリングの部屋には卵のボール（いろいろな鳥の卵を実物大で再現した木のボールプール）があり、赤ちゃんたちはさつそくハイハイで中に入ったり出たりし

ちにも笑顔がひろがりました。

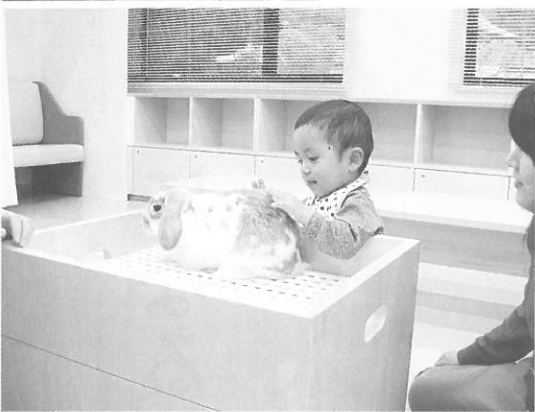
ここでふれあうモルモットは、ほかの動物たちとは別に暮らしています。また、器具への消毒もとても入念でした。「幼い子たちなのでより安全に、衛生的に」。飼育員さんたちの思いです。

リニューアル前に来園者にアンケートをとったところ、乳児を連れてお母さんたちの来園が予想以上に多かったそうです。これははじめてルームが、そんな親子の学びや憩いの場になることでしょう。

わくわくベースとしてのばずラボ

幼児や小学校の低学年を対象としたわくわくベースでは、動物とふれあいながら、動物の体つきの工夫や命のたいせつさを学ぶ体験プログラムを開催。動物とのふれあいのコーナーはこれまでもありましたが、ふれておしまい！ という部分もありました。じっくり

▼0歳〜3歳までを対象とした「はじめてルーム」



▲はじめ、こわがっていた子も飼育員さんやお友たちがいる方へ…（上）そしてそーっとなでて、ニコリ（下）



▲「好きな動物はなんですか？」とたずねると、「ミジンコ」と高橋さん（右）、「コウモリ」と井内さん（左）

ていました。

もう少し大きい子には、飼育員さんごっこが待っています。積み木でできたエサがあり、それを切って、動物たちの口の中へ。子ども用のスタッフジャンパーも用意されていて、その気になって楽しむことができます。また、部屋には動物の絵本や図鑑がいろいろあります。子どもが見るだけでなく、子どもに質問されたときに、おとなも学びながら答えることができます。ガラスケースの向こうには絵本に登場する生き物もいます。棚の裏側には仕掛けもあり、おとなにとってもとても楽しく居心地のよいスペースでした。

ここでじっくり遊んだあとは、隣の部屋へ。モルモットが待っていました。はじめ、一人の男の子が「ふえーん」。でも、飼育員さんにやさしく手招きされ、もう一人の男の子が手を伸ばすと、「ぼくも」。お母さんた

障害児へのとりくみ

上野動物園では1949年からサマースクールを開催。1965年からは盲学校の小学部の子どものためのスクールを開設。6年間毎年来る子もいるので「6年分のメニューを用意」しました。園内には動物の原寸大のプロジェクターも展示されているので、さわって感じることが出来ます。

夏休みには、障害児と家族対象の「ドリームデイ・アット・ザ・ズー」を開催。手話も対応。閉園日の開催なので、きょうだいたちもいっしょにゆつくり見て回ることが出来ます。西園・弁天門のリニューアルで駐車場からのアクセスも近くなり、段差も解消。バリアフリー化も進んでいます。

はじめてルームも数組でゆつくり過ごせるので、障害児の親子たちが、誘い合って訪れることもできるでしょう。

*

動物大好き！ のお二人に、動物園に勤めるうえで大切なことをたずねました。

「飼育員はただ動物が好きなかただけではダメ。動物のことを人びとに伝えたい！ と思うことが大事」「動物を絶滅させているのは無関心な人たち」と井内さん。「まずは動物のことを知ってもらいたい」「だから動物園に足を運んでほしい」と高橋さん。

はじめてルームから帰る親子にいつまでも手を振るお二人。「また来てね」の思いをこめて。動物園に、家族で、仲間と、行ってみませんか？

（取材＝新井田恵子）